

# Bonjour

ボンジュール!!

2017年  
4月5日号

Vol.351



注意報が出ています。

## ● 不透明要因が山積み

東京の桜は満開と報じられ、心躍る陽気です。一方、マーケットは今ひとつすっきりしないムードですね。ここまで堅調だったトランプ相場にも「黄信号」。少し前までの楽観ムードは影をひそめています。いったいその背景は!?

注意すべき市場を取巻く主な不透明要因を確認しておきましょう。

### ① トランプ政策実効性に暗雲!?

3月24日トランプ大統領は「オバマケア代替案」撤回を余儀なくされました。代替法案を巡る与党共和党の足並みが乱れ、法案通過の為の賛成票が足りないと判断した為です。

公約の目玉政策であった別名「トランプケア」とも呼ばれた代替法案の可決に失敗したことで、トランプ政権と身内のはずの共和党が一枚岩ではなかったことを露呈してしまった格好です。オバマケアの見直しによって削減した財源を回すと期待されていた法人減税やインフラ投資といった政策の実効性にも不透明感が漂い始めています。

### ② フランス大統領選の「まさか!?!」

欧州では政治リスクがくすぶっています。注目のフランス大統領選は4月23日に第1回投票が行われ、決選投票は5月7日です。

フランスのEU離脱や難民・移民の制限を公約

に掲げる極右政党ルペン氏が高い支持率を維持しています。ルペン氏が第1回投票で残ったとしても決選投票で勝つ見込みは薄いと見られていますが、一定の支持を獲得している点には注意が必要です。

フランスでEUを良く思わない人の割合が多いという現実、また、欧州が「移民」と「テロ」という深刻な問題に直面しているという点です。

もし仮に、「まさかの結末」を迎える様なことがあれば、フランスのEU離脱、ひいてはEU崩壊の懸念まで浮上し、市場に大きなインパクトを与えることは必至です。

### ③ 英国vsEU 離脱交渉スタート

英国のメイ首相は3月29日、欧州連合(EU)基本条約(リスボン条約)50条を発動し、EUに対して離脱を書簡で正式に通知しました。

これにより向こう2年間に及ぶ離脱交渉の手続きが始まりましたが、離脱交渉は難航が予想されています。早急に各国と自由貿易協定(FTA)の交渉に入りたい英国と「良いとこ取りはさせない」と強硬姿勢を崩さないEUとの溝はなかなか埋まりそうにありません。

ということで、今年も「まさか!?!」に備えておいた方が良さそうですね。

こうした不透明な局面では、様々な資産に分散投資し、機動的に資産の入替えが可能なアセット・アロケーション型の運用が良さそうです。